

【会員投稿】

八千代市最古の万治三年銘の三猿付角柱型庚申塔とその類型塔

藤 由 美

八千代市西端の吉橋の高本八幡宮入口の庚申塔群には、「万治三年」銘の笠付角柱型の庚申塔があります。



庚申塔群の右端で、脇の灌木が覆っていることもあり目立ちませんが、八千代市内最古の庚申塔で、総高百四十cm、笠と塔身は一石で彫りだされ、水鉢付の台座に載っています。

光背型の輪郭内下部に三面に三猿を一匹ずつ浮き彫りし、上部には建立年月日と願文、建立主体の銘が、また猿の下には十八名の人名が刻まれています。

拓本を採り、早川正司会長のご指導で読み取った上部の銘文は次の通りです。

一 万治三天庚子十月吉日

敬

為庚申待現當二世悉地成就処

講人数十八一結諸衆

白



三面に彫られた各猿の像容は写実的で丸彫に近く、笠・塔身・台座のバランスもよく、青面金剛が主尊として定着する以前の三猿主体の庚申塔としてたいへん優れた石塔です。

三面に一猿ずつ三猿を配し、願文を刻した笠付角柱の庚申塔のこの形は、次のように近隣に広がっています。

・寛文三年（一六六三）佐倉市新町嶺南寺（笠を喪失）



・延宝元年（一六七三）八千代市萱田飯綱神社下（左右面に男女別に人名列記）

・延宝五年（一六七七）佐倉市白井水田内（冬のみ立ち入り可）



更に遠方では、木更津市吾妻神社に延宝八年（一六八〇）の道標付庚申塔があります。『続房総の石仏百選』八七）

また天和二年（一六八二）八千代市平戸字道地と同島田字通原の、日蓮宗系題目庚申塔にも、この形態が継承されています。

この高本八幡宮の塔は、八千代市内最古の庚申塔としてだけでなく、近世初期の三猿を三面に配した角柱笠付型庚申塔の初発といえることから、私はぜひ八千代市の文化財に指定されるべきだと思っています。皆様方からご意見、また同型の事例情報をお待ちしていますので、どうかよろしくお願いします。